

SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度選定

岩手県岩手町

2022年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

岩手町SDGs未来都市計画
トリプルボトムラインによる町の持続可能性向上モデルの構築・実証
～ SDGs姉妹都市 × リビングラボ ～

-

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

岩手町SDGs未来都市計画 トリプルボトムラインによる町の持続可能性向上モデルの構築・実証 ～ SDGs姉妹都市 × リビングラボ ～

(2) 2030年のあるべき姿

SDGsの理念・ゴールを道標として、岩手町に関わる全ての人々が主体的に、互いに連携・協力し合って町の持続可能性を高めていくことに深い喜びと誇りを感じている。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※【】内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年（現状値）		2030年（目標値）		達成度（%）
1	農業粗生産額 【8.2,8.3,8.5,9.1,9.4,9.5,12.2,12.a】	2017年 135 億円	2021年 134 億円	2030年 150 億円	-7%		
2	林業生産額 【12.2,12.a,13.1,13.2,15.1,15.2,15.3,15.4,15.5】	2015年 3 億円	2021年 3.3 億円	2030年 6 億円	10%		
3	1人当たりの農業生産額 【2.3,2.4,8.1,8.2】	2015年 3,130 千円	2021年 2,616 千円	2030年 3,440 千円	-166%		
4	農畜産物海外出荷額（加工品含） 【2.3,2.4,8.1,8.2】	2020年 0 千円	2021年 0 千円	2030年 1,000 千円	0%		
5	SDGs姉妹都市提携都市数 【17.16,17.17】	2020年 0 都市	2021年 0 都市	2030年 5 都市	0%		
6	観光客入込客数（関係人口/交流人口含む） 【8.2,8.3,11.a】	2018年 27.6 万人	2021年 18.9 万人	2030年 40.0 万人	-70%		
7	半年度当たりの新規起業家数 【8.3,8.5】	2019年 2 事業者	2021年 1 事業者	2030年 5 事業者	-33%		
8	リビングラボや起業塾によって実施された課題解決型プロジェクトの数 【8.2,8.3,8.5,8.10】	2019年 0 プロジェクト	2021年 6 プロジェクト	2030年 120 プロジェクト	5%		
9	健康管理を行っている人の割合 【3.b】	2019年 47 %	2021年 46.1 %	2030年 60 %	-7%		
10	障がい者就業者数 【8.5,11.3】	2019年 63 人	2021年 83 人	2030年 88 人	80%		
11	SDGs姉妹都市提携都市数 【17.16,17.17】【再掲】	2020年 0 都市	2021年 0 都市	2030年 5 都市	0%		

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年（現状値）		2030年（目標値）		達成度（%）
12	観光客入込客数（関係人口/交流人口含む） 【8.2,8.3,11.a】【再掲】	2018年 27.6 万人	2021年 18.9 万人	2030年 40 万人			-70%
13	単年度当たりの新規起業家数 【8.3,8.5】【再掲】	2019年 2 事業者	2021年 1 事業者	2030年 5 事業者			-33%
14	リビングラボや起業塾によって実施された課題解決型プロジェクトの数 【8.2,8.3,8.5,8.10】【再掲】	2019年 0 プロジェクト	2021年 6 プロジェクト	2030年 120 プロジェクト			5%
15	ごみ排出量の抑制 【11.6】	2019年 3,963 t/年	2021年 3,802 t/年	2030年 3,489 t/年			34%
16	自然エネルギー（公共施設） 【7.2,7.b】	2019年 115.8 kw/年	2021年 115.8 kw/年	2030年 1,000 kw/年			0%
17	SDGs姉妹都市提携都市数 【17.16,17.17】【再掲】	2020年 0 都市	2021年 0 都市	2030年 5 都市			0%
18	観光客入込客数（関係人口/交流人口含む） 【8.2,8.3,11.a】【再掲】	2018年 27.6 万人	2021年 18.9 万人	2030年 40 万人			-70%
19	単年度当たりの新規起業家数 【8.3,8.5】【再掲】	2019年 2 事業者	2021年 1 事業者	2030年 5 事業者			-33%
20	リビングラボや起業塾によって実施された課題解決型プロジェクトの数 【8.2,8.3,8.5,8.10】【再掲】	2019年 0 プロジェクト	2021年 6 プロジェクト	2030年 120 プロジェクト			5%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

<p>「No.1 農業粗生産額」については、大規模畜産事業体の誘致や集積化による生産額拡大施策を実施していることから、今後は増加傾向で推移するものと推測される。その一方、人口減少や廃業などによる農業者数の減少が問題となっている。そのため、町外への就農希望者に対する現地ツアーの実施など、新規就農者の増加につながる取組を実施していく。</p> <p>「No.3 1人当たりの農業生産額」については、生産額が減少したことに伴い大きく減少している。しかし、No.1同様、大規模畜産事業体の誘致や集積化による生産額拡大施策を実施していることから、生産額については今後増加していくものと推測されるが、その一方、人口減少や廃業などによる農業者数の減少が問題となっている。そのため、No.1同様、町外への就農希望者に対する現地ツアーの実施など、新規就農者の増加につながる取組を実施していく。</p> <p>「No.4 農畜産物海外出荷額（加工品含）」については、販路拡大に関する調査を主に実施したことにより、出荷まで実施できていない状況にある。そのため、その一環として国外の都市との提携を推進し、その都市への出荷を検討、実施していく予定である。</p> <p>「No.5、11、17 SDGs姉妹都市提携都市数」については、現状値は0であるが、国内のSDGs未来都市との提携の推進を図る取組を実施するとともに、国外のSDGs先進都市との提携に関して検討しており、今後は国内外の都市との具体的な提携に向けた取組を加速していく予定である。</p> <p>「No.6、12、18 観光客入込客数（関係人口/交流人口含む）」については、依然として新型コロナウイルス感染症の影響が大きい現状にある。その中において、リビングラボや姉妹都市提携など、関係人口及び交流人口の増加につながる取組を検討、実施していく。</p> <p>「No.8、14、20 リビングラボや起業塾によって実施された課題解決型プロジェクトの数」については、本町の魅力・強みが発揮できる分野においてプロジェクトを設定、実践している。今後についても、プロジェクトの内容の精査をしながら、継続的に実践していく。</p> <p>「No.9 健康管理を行っている人の割合」については、新型コロナウイルス感染症による検診の受診控えが大きな要因と推測される。しかし、緩やかではあるが感染症が鎮静化しつつある今後は、積極的な受診が見込まれるとともに、現在も実施している対象者への周知など、受診の勧奨に改めて注力していく。</p> <p>「No.16 自然エネルギー（公共施設）」については、2021年度に公共施設におけるPPA方式による太陽光発電設備に関する事業化検討及び調査事業を、太陽光発電設備未設置の公共施設93施設を対象に実施した。その結果を基に、今後は設置施設の検討や選定、設置を進める予定である。</p>

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2020年実績	2021年実績	2022年実績	2022年目標値	達成度(%)
1	町の農業文化を体系化し、SDGsの観点から磨き上げていくことで、世界に誇れる「アグリカルチャー/アート」を共創する。	新たな商材開発・販路開拓による販売額	2019年 0千円	2020年 0千円	2021年 0千円		2022年 6,000千円	0%
2	町の農業文化を体系化し、SDGsの観点から磨き上げていくことで、世界に誇れる「アグリカルチャー/アート」を共創する。	スマート農業等実施農家数	2019年 1件	2020年 2件	2021年 7件		2022年 5件	150%
3	町が地域ぐるみで展開してきた健康福祉・スポーツ分野の取組を総合化・体系化し、SDGsの観点から磨き上げることによって、世界に誇れる「スポーツカルチャー/アート」を共創する。	あいあいバス・タクシー利用者数	2018年 9,169人	2020年 7,438人	2021年 7,213人		2022年 10,000人	-235%
4	町の豊かな自然資源を活かす創造的な営みを総合化・体系化し、SDGsの観点から磨き上げることによって、世界に誇れる「クラフトカルチャー/アート」を共創する。	光プロードバンド未提供地域	2020年 99地域	2020年 99地域	2021年 0地域		2022年 0地域	100%
5	町の豊かな自然資源を活かす創造的な営みを総合化・体系化し、SDGsの観点から磨き上げることによって、世界に誇れる「クラフトカルチャー/アート」を共創する。	安心生活あいネット事業実施地区数	2019年 38地域	2020年 40地域	2021年 41地域		2022年 50地域	25%
6	町の豊かな自然資源を活かす創造的な営みを総合化・体系化し、SDGsの観点から磨き上げることによって、世界に誇れる「クラフトカルチャー/アート」を共創する。	森林セラピー参加者数	2019年 203人	2020年 179人	2021年 493人		2022年 300人	299%
7	町が地域ぐるみで展開してきた健康福祉・スポーツ分野の取組を総合化・体系化し、SDGsの観点から磨き上げることによって、世界に誇れる「スポーツカルチャー/アート」を共創する。	IT/ICT導入集会施設等	2019年 0箇所	2020年 0箇所	2021年 10箇所		2022年 10箇所	100%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

No	取組名	指標名	当初値	2020年実績	2021年実績	2022年実績	2022年目標値	達成度(%)
8	町が地域ぐるみで展開してきた健康福祉・スポーツ分野の取組を総合化・体系化し、SDGsの観点から磨き上げること、世界に誇れる「スポーツカルチャー/アート」を共創する。	健康いきいきサロン実施地区数	2019年 62箇所	2020年 62箇所	2021年 62箇所		2022年 65箇所	0%
9	町の豊かな自然資源を活かす創造的な営みを総合化・体系化し、SDGsの観点から磨き上げること、世界に誇れる「クラフトカルチャー/アート」を共創する。	耕畜連携実施農業者数	2018年 121人	2020年 107人	2021年 101人		2022年 127人	-333%
10	町の豊かな自然資源を活かす創造的な営みを総合化・体系化し、SDGsの観点から磨き上げること、世界に誇れる「クラフトカルチャー/アート」を共創する。	年間延べ林業作業日数	2015年 18,331人日	2020年 15,361人日	2021年 20,511人日		2022年 20,000人日	131%
11	町の豊かな自然資源を活かす創造的な営みを総合化・体系化し、SDGsの観点から磨き上げること、世界に誇れる「クラフトカルチャー/アート」を共創する。	再生可能エネルギー発電装置設置施設（公共施設）	2019年 0施設	2020年 0施設	2021年 0施設		2022年 5施設	0%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

町内外の多様な人材や企業を積極的に巻き込み、新しいまたは専門性を持った視点、先進的技術の導入を図ることにより、町の課題解決を推進することを目的として、リビングラボにおいてプロジェクトを実践している。

また、SDGsの取組を実施している町内外の個人や企業、団体等からの宣言に対し、町として認証することにより、関係人材・団体の拡大とSDGsの一層の普及を図っている。

その次の段階として、事業者や事業者の提供する商品・サービスなどに対し、本町が定める基準を満たした場合にSDGs認証を付与することにより、持続可能性の高い生産方式やSDGsの達成に寄与する商品・サービスを市場に投入し、地域における需要の喚起や経済循環を高めつつ、地域外の経済も取り込むことを目指していく。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

「No.1 新たな商材開発・販路開拓による販売額」については、新たな販路開拓ができなかったことが要因となっている。そのため、販路の検討や地域外でのPRイベントの実施、新たな商材を発掘または開発などに、今後も注力していく。

「No.2 スマート農業等実施農家数」については、農業者により構成されているスマート農業研究会の構成員が、積極的にスマート農業を導入したことによる。一方で、「No.9 耕畜連携実施農業者数」については、農業者数が減少していることが要因であり、新規就農者数の増加が課題となっている。そのため、町外の就農希望者に対する現地ツアーの実施など、新規就農者の増加につながる取組を実施していく。

「No.3 あいあいバス・タクシー利用者数」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少傾向にあることが要因となっている。しかし、緩やかではあるが感染症が鎮静化しつつある今後は、利用者の回復が見込まれる。一方で、「No.6 森林セラピー参加者数」については、感染症流行下においても、イベントの実施や健康志向の高まりによる施設利用者の増加が主な要因となっている。今後もイベントの実施などによる、施設活用及び健康増進を図る取組を実施する。

「No.4 光ブロードバンド未提供地域」については、2021年度に町内全域に光回線の整備が完了したことによる。同じく、「No.7 IT/ICT導入集会所等」については、2021年度に対象10施設すべてにICT機器の整備が完了したことによる。それらを受け、今後は多方面における積極的なICTの活用を図る。

「No.10 年間延べ林業作業日数」については、2021年度は目標値を達成した形となるが、林業者の減少が続いていることから、新規就業者の増加が課題となっている。そのため、山林の適切な管理を学ぶ研修などを実施し、山林所有者自らが管理するしくみ、また、それを機に就業を促進する取組を実施する。

「No.11 再生可能エネルギー発電装置設置施設（公共施設）」については、2021年度太陽光発電設備に関する事業化検討及び調査事業を実施した。その結果を基に、今後は設置施設の検討や選定、設置を進める予定である。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・小規模自治体で、壮大な構想に向かって着実に推進しており、今後の取組が期待される。
- ・他のSDGs未来都市や海外の先進的な都市とも交流している点は素晴らしく、連携フォーラムも中身があり、大変期待できる。広域連携にもつながる取組であり、協力の中身が重要であるため、注力しながら進めることを期待する。
- ・農業系の落ち込みは構造的なものと思料する。域外からの呼び込み策だけでは不安であり、新規起業が進まないことも同様に懸念されるため、要因分析と適切な将来計画の改訂が必要であると思料する。